

令和7年度 授業改善プラン

地域名	東葛教育事務所	学校名	柏市立富勢中学校
-----	---------	-----	----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○全国学力・学習状況調査（R6.4：中学校3年生）の結果、全国平均よりも国語が下回っており、特に国語の「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる」、「資料を用いて自分の考えがわかりやすく伝わるように話すことができる」や「話し合いの話題や展開を捉えながら他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめることができる」等に課題があった。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

○国語科を筆頭に、全学年において全教科・領域横断的にポスターセッションという形で授業の実践を行うことで、上記項目の課題である、話し合いの中で自分の考えをまとめ深めていく力、相手の立場に立って考える力、伝える力などが向上するだろう。

3. 具体的な実践

○国語科SDGs、孔子の言葉、風景と心情などの教材ではオンライン編集ツールを使い、ポスターを作製してポスターセッションを行った。質疑応答では、内容に関するものだけでなく、発表の仕方についても意見を述べさせた。

○各学年総合でのポスターセッション。旅行行事の事後学習やキャリア教育の手段としてポスターセッションを用いた。

4. 成果

○令和6年度の柏市独自のアンケート調査において、本校の弱み・課題はコミュニケーション（関わり合う力）の「相手の立場に立って考える力」「伝える力」「相談する力」及びコントロール（自律する力・生活力）の「主体性」であった。そのため、今年度、ポスターセッションという実践を導入したことにより、これらのすべてにおいて向上がみられた。

◆担当指導主事から

○全国学力・学習状況調査等から課題を見だし、教科横断的に生徒の資質能力の向上に取り組んでいる学校である。ポスターセッションを取組の柱として、協働的な学びに力を入れた学習が成果に結びついている。次年度は相手意識をもつことの重要性に着目し、全職員で力を合わせ、教科横断的な取組を一層推進することをねらっている。